

ケアブラチャン (学名: *Lindera praecox* var. *pubescens*)

[クスノキ科 クロモジ属]



▲ケアブラチャンの実(入叶津浅草岳登山道)

▲アカミノアブラチャンの実(2015年8月21日)

秋になると山には様々な果実が実ります。その中で、パチンコ玉より少し大きなまん丸の黄色い実を見つけたら、それはアブラチャンです。只見町に生育するのは、正式にはケアブラチャンというアブラチャン *Lindera praecox* の変種です。ケアブラチャンの葉の裏面脈上には毛があり、アブラチャンと区別できます。アブラチャンは本州、四国、九州に広く分布しますが、ケアブラチャンは日本海側の山地に生育が限られています。

ケアブラチャンは、落葉低木で、幹が茂りやぶを形成します。葉は楕円形で、先がとがったしずく型をしています。花期は、只見町では4~5月で、開葉に先立ち細い枝先に小さな丸い黄色の花を咲かせます。9~10月に果実が付き、熟すと黄色

くなり、乾燥すると割れて種子が飛び出します。

只見町では、全域に分布し、林縁から山地にかけての比較的湿り気のある場所に生育します。長浜地区には、ここだけにある赤い実の成るアカミノアブラチャンが生育しており、町の天然記念物に指定されています。実が赤いのは、平安時代末期に石川冠者有光という人が首をはねられ、その際にあふれ出た血汐を吸い上げたからだという伝説があります。アブラチャンの名前は、種子や樹皮に多く油を含み、生木でも燃えることからついたと言われてしています。只見町の方言では「ジサガラ」と呼び、ザルの縁やソラックチの骨、かんじき、燃料材として用いられていたそうです。

企画展示

「只見町のブナの森 -ブナの生態から利用まで-」

日時：9月27日(日)まで開催中

只見町のシンボルであるブナ林について、パネルや写真、標本を用いて紹介します。

ブナセンター講座と自然観察会

講師 崎尾 均 氏(新潟大学農学部付属フィールド科学教育研究センター・教授)

水辺林の専門家である崎尾均氏を講師に迎え、ブナセンター講座で外来種ニセアカシアの生態についてお話しいただき、自然観察会では河畔林とそこに侵入したニセアカシアを観察します。

ブナセンター講座

「ニセアカシアの生態と管理～外来種の脅威!～」

日時：10月24日(土) 午後1時30分～午後3時

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

自然観察会

「伊南川の河畔林を観察しよう!」※事前申し込みが必要です

日時：10月25日(日) 午前9時～午後2時